

平成 29 年度（第 2 回）二宮町文化財保護委員会議 会議録

日 時 平成 30 年 2 月 8 日（木） 10：00～11：30

場 所 ラディアソ ミーティングルーム 1

出席者 （文化財保護委員） 橘川卓司委員長、杉山幾一副委員長、加藤孝次委員、
露木泰彦委員

（事務局） 府川教育長、鐘ヶ江教育部長、
椎野生涯学習課長、須賀副主幹
中山文化財保護事務嘱託員

傍聴者 なし

資 料 (1) 平成 29 年度文化財保護関係事業報告
(2) 二宮町指定天然記念物「タブノキ」について

1、開会

2、委員長挨拶

3、教育長挨拶

4、議題

(1) 平成 29 年度文化財保護関係事業報告

※事務局より資料に基づいて説明。

(教育長) 追加説明をお願いしたいのですが、試掘の場所はどこですか。また民俗芸能 3 団体というのはどちらでしょうか。

(事務局) 二宮字日吉原下道です。郵便局の本局から見て北の方角の、東海道本線を越えたところの開発地です。民俗芸能 3 団体とは川勾神社雅楽保存会、中里獅子舞保存会、二宮町レクリエーション協会です。

(委 員) 川勾神社保存会は現在メンバーが 10 名で、月に 1 回一色の防災コミュニティーセンターで練習をしており、神社の祭礼に奉仕する他、大磯城山公園のライトアップの時や平塚八幡宮に呼ばれることもあります。

(委 員) 試掘の結果はどうでしたか。

(事務局) 1.5mほど掘り下げたところで海砂が確認され、さらに 20 cmほど掘り下げましたが遺物、遺構とも発見されませんでした。

(委 員) その辺は砂丘だったのでしょう。江戸時代に東海道が整備される前の古い道は今より北側だったと聞いていますから、その砂丘の上に道があったのかもしれませんが。

(委 員) そこは水がないので人が住んでいなかったのではないですか。

(委 員) 確かに今回の場所では何も発見されませんでした。砂丘で水がないから人が住まないというわけではなく、30 年ほど前には砂丘上にも土器片がかなり落ちていま

したし、体育館のところも砂丘ですが、たくさんの土師器や弥生土器が見つかって
います。ですから調査は慎重にさせていただきたいものです。また平塚では律令制時
代の東海道の遺構として、幅9メートル、深さ1.5mの側溝が掘られているのがわ
かっています。当時はよほどのことがない限りまっすぐな道を作ることが決
められていたので、試掘調査の時にそのようなものが確認できれば古道発見の手が
かりになりますね。

(2) 二宮町指定天然記念物「タブノキ」について

※事務局より資料に基づいて説明。

(委 員) この報告を受けてどうするかの判断は町がするのですか。

(事務局) 今回の診断は町が半額の補助をしましたが、今後の判断の主体は所有者様になり
ます。剪定とケーブリングで50万円ほどかかるそうですが、今すぐには手をつけら
れないということです。診断の結果もただちにそれらが必要だというわけではあり
ませんが、いずれは対応しなければならぬ時がきますので、こちらからも
投げかけはしていきたいと考えています。また台風や大雪の後などには見回りをし
ているのですが、今後もそれを続けるとともに、所有者様と連携をとってまいりま
す。

(委 員) タブノキの樹齢はどのくらいですか。

(事務局) 300年ほどと言われております。

(委 員) 枯枝が落ちるなど近隣からクレームなどはないですか。

(事務局) 特にありません。

(委 員) 剪定などの経費は年数が経てば今の見積りより上がるでしょう。その時町も半額補
助と言っても全体の金額が高ければ補助金額も上がってしまうので、毎年経費のよ
うな形で積み立てていくという方法はとれないのですか。

(事務局) たとえば剪定などの予算を部分的に執行できるのであれば、本来は1年で行うと
ころを2年に分けて行うということはあるかもしれません。検討課題といたします。

(教育長) 町では、天然記念物ではないのですが、このところ落雷による松の倒木が何件か
ありました。それは補正予算で対応しました。他の天然記念物の状況はどうなっ
ていますか。

(事務局) 西光寺のカヤノキは管理がしっかりされていて、ケーブリングもなされています。
等覚院の藤棚は数年前に台風で壊れたことがあったのですが、町で半額を補助し、
修理いたしました。蘇峰堂の梅も古木には支えがあります。これらも台風の後など
見回りを行っています。

(委 員) どうぞよろしく申し上げます。

5、閉会